

平成30年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月29日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①研究授業や授業見学を更に活性化させ、学校全体としての組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②基礎学力の充実に同時に、各科やクラス内における学力の偏りに対応する授業等の実践を目指す。</p> <p>③カリキュラムや各行事の充実に図りながら、授業時数の確保を目指す。</p>	<p>①55分授業を活かした、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために計画的・組織的な研修を行う。</p> <p>②基本的な学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着・充実に図り、職員全体で個々の生徒の状況を共有することで思考力・判断力・表現力を養成する授業を実践する。</p> <p>③新教育課程の編成にむけ、基本方針を決定する。</p>	<p>①「主体的・対話的学び」を年2回の公開授業の目標設定とする。また、生徒による授業評価アンケートの結果を分析し、授業改善学習会を実施する。</p> <p>②基礎力診断テストを、1、2年生に3回実施する。それぞれの結果を基に職員対象の研修会を行い、個々の生徒の状況を共有し教科を越えて結果を活用するよう工夫する。</p> <p>③カリキュラム検討委員会を設置し、新教育課程編成の基本方針を決定する。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学び」の実現に向け55分授業を活用できたか。授業改善に向け授業見学を第1回に他教科を含め2回以上行い、第2回に研究授業を含め2回以上行ったか。また、研修会・学習会を実施できたか。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を基にした職員対象の研修会を3回行ったか。全教科で診断テストの結果を活用できたか。生徒の苦手を把握し克服、改善に向けた授業の工夫ができたか。</p> <p>③新教育課程の基本方針を決定できたか。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学び」の実現に向け55分授業を活用できた。授業見学の期間を2回設定した。研修会・学習会を実施できた。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を基にした職員対象の研修会を2回行った。全教科で診断テストの結果の活用を進めた。</p> <p>③新教育課程の基本方針を決定にむけ、カリキュラム検討委員会を開催した。</p>	<p>①研究授業・授業見学による授業改善を更に進める必要がある。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を有効に活用するために実施時期・回数・研修会のあり方を検討する。</p> <p>③本校の特徴を活かした新教育課程の編成を更に進めた。</p>	<p>1時間あたりの授業時間が5分間延長したことで、授業指導において従前は十分に取組むことができなかったような授業の振り返りに活用され有効に利用されている。</p>	<p>①校内における研修会の実施や授業改善に向けての取組が進み一定の成果を得た。</p> <p>②生徒の学習への取組や成果をもとに、生徒の進路実現に向けた指導に役立たせる見通しが立った。</p> <p>③新学習指導要領の施行に向けて、校内でも検討を始めることができた。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために組織的な研修を行う。</p> <p>②基礎力診断テストを導入した学年が卒業年度を迎えることを踏まえ、効果的な進路指導を実施する。</p> <p>③新教育課程の研究を進め、効果的で有効な教育課程の編成に取り組む。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③部活動の活性化を通して、問題解決能力を育み責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりに対応した生活指導を徹底し、社会人としてのルール・マナーを定着させる。</p> <p>②個々の生徒の状況に応じた組織的な相談体制を構築し、円滑な学校生活を送ることができるよう支援する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>④部活動、同好会、各委員会、農業クラブ、商友会の活動の活性化を推進する。</p>	<p>①担任・学年と協力して、挨拶の励行と服装や頭髪等の身だしなみを徹底し、規範意識の向上を図る。携帯電話、SNSの正しいマナーの徹底及び、新校地への移転に向けた自転車乗車・交通安全教育の充実に図る。</p> <p>②組織的且つ迅速な対応を目指す、教育相談コーディネーターを活用し、生徒の困り感を見逃さない。</p> <p>③各種行事において、生徒主体の生徒会活動への支援を行い、生徒のコミュニケーション能力と行動力を育む。また教員間での連携と情報共有の充実に努める。</p> <p>④顧問総会を定期的に開催し、課題や移転の情報を共有し、部活動の活性化の支援を行う。</p>	<p>①集会や講演会を昨年よりも充実させるとともに学年団を中心にした、日常的な挨拶や身だしなみ、マナー教育を図ることができたか。</p> <p>②生徒指導事故件数を減少させるとともに、事故の未然防止につなげ、生徒個々の情報共有ができたか。</p> <p>③行事運営において生徒主体の円滑な運営ができたか。</p> <p>④顧問総会は定期的実施できたか。円滑な部活動の移転運営及び準備が出来たか。</p>	<p>①頭髪・服装等の身だしなみを行えるように本年度より月に1回の正門指導を2～3週に1回の間隔で行い、日常的に継続した身だしなみ徹底を行った。移転に向けた取組みとして、スケアード・ストリート交通安全教室を実施することができた。</p> <p>②養護教諭、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーと常に連携を図り、積極的に情報を共有することができた。</p> <p>③生徒会本部役員を中心に実行委員会を作り球技大会、体育祭、相陵祭を実施した。</p> <p>④顧問総会を学期に1度開催した。</p>	<p>①SNSの正しい使用方法についての事故は少なからずあり、日常から担任や生徒指導担当から担任や生徒指導担当に啓発していく必要がある。特に教員側のSNSの新技術の研修の必要性も感じられた。</p> <p>②クラスや部活動内でのトラブルは多少あるため、今後も生徒が安心して学校生活を送れるよう迅速な対応を継続していく。</p> <p>③卓球部、バレーボール部、畜産部、ESS部、ワープロ部が例年と同じく好成績を残した。</p> <p>生徒会本部役員を中心に球技大会、体育祭、相陵祭を実施した。生徒主体の運営を支援した。</p> <p>顧問総会を学期に1度定期的に開催し、新校地での活動場所と部室の移転を支援した。</p>	<p>生徒には相手のことを考えてSNSを使用するよう指導が行われているが、引き続き丁寧な指導していただきたい。さらに、個人情報の管理に留意したうえで、ハラスメント、人権に配慮した指導を適切に行っていただきたい。</p>	<p>①SNSの適切な利用について、ロングホームルームや全校集会等でも生徒へ指導を行い、一定の成果をあげた。</p> <p>②教職員、保護者、職員スクールカウンセラーが連携して生徒支援を行い、成果をあげた。</p> <p>③生徒主体の学校行事になるよう生徒を支援し成果をあげてきている。さらに適切な支援が課題となる。</p> <p>④校舎・校地の移転に伴う部活動や学校行事等の円滑な実施が今後の課題となる。</p>	<p>①生徒の人権に配慮した指導をさらに徹底した上で、安心、安全な学校生活を送ることができるよう組織的に取り組む。</p> <p>②組織的な生徒支援のために、教職員、保護者、スクールカウンセラーとの連携を一層深める。</p> <p>③生徒支援グループと生徒会役員との連携やホームルームでの生徒からの意見集約など、時間をかけて生徒主体の活動になるよう取り組む。</p> <p>④移転後の課題を整理し、生徒が活動しやすい状況を組織的に検討する。</p>

3	進路指導・支援	専門性の高い知識と技術を育み、社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、社会人基礎力を主体的に身につけるとともに、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。	①生徒個々の進路に応じた、多様で専門性の高い知識と技術を育成する。 ②収集したデータを活用し、学年の状況に応じたガイダンスを計画的に行う。志望大学の入試に対応できる生徒を育成する ③就職する企業に見合ったマナーや基礎学力の定着を目指す。	①各科が産業界等と連携し勤労観・職業観を育成するために・多様な進路選択に対応した学習活動の充実を目指す。また、職業理解のため、インターンシップ・農業体験等への参加を継続的に募り、昨年度を超えるインターンシップ等への参加を目指す。 ②学部・大学について主体的に情報を収集して絞り込むための進路行事を行う。また、進路のデータを生徒に示す ③基本的マナーの指導や各種ガイダンスを実施して、生徒が自主的に進路選択をできるように指導する。	①勤労観・職業観を育成する連携を図るため、インターンシップ等の参加状況は目標を達成できたか。 ②進路状況のデータの活用と蓄積はできたか。 ③生徒の進路意識を高めることができたかを進路結果より確認する。	①インターンシップ等への参加人数は昨年度並みであった。長期休業中の実習等との関係で日程が合わない者もいた。 ②データベースソフトを導入し、データの管理を開始した。 基礎力診断テストを年3回行った結果、基礎学力が伸びている生徒の割合が多かった。 ③基礎的なマナー、小論文、各種進学、就職指導を行った。生徒の参加態度は良好である。	①公民館をはじめ、地域とさらに連携を深め、生徒の参加数の増加に努めたい。 収集しているデータ利用について、今後安定した軌道に乗せて行きたい。 ②基礎力診断テストの結果を、生徒の進路に活用する手段を考える必要がある。 ③年々挨拶ができない生徒が増えている。挨拶の必要性を理解させ、誰にでも快く挨拶ができるように改善する必要がある。	多くの生徒がインターンシップに参加しているが、さらにたくさんの参加を期待したい。 基礎力診断テストを活用し、生徒の進路指導にかかる適切な支援をお願いしたい。	①インターンシップ等の就労体験活動に多くの生徒が参加するよう、より周知をすることが課題となった。 ②基礎力診断テストの結果を活用した進路指導に向けて資料が整理できた。 ③挨拶が普通にできる雰囲気作りが課題となる。	①進路に係る行事等が生徒、保護者に周知できるよう案内方法を工夫する。 ②校内の情報共有の徹底を図り、資料等の有効活用の研究を行う。 ③日ごろの声かけや挨拶の意味等様々な場面で、学校文化の醸成に教職員全員で取り組む。
4	地域等との協働	①地域産業界と連携し、個性豊かな人間性や社会性を培うために、農業科・商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、社会に貢献することができる生徒の育成を実現していく。 ②社会の動向に柔軟に対応できる産業人の育成に向けた専門教育活動の充実を図る。	①地域の企業、団体との連携をより組織的に進め、効果の検証、見直しを行う。 ②外部による特別授業を積極的に実施し、専門性の向上を図るとともに、教科・学科の枠を超えた教育活動を展開・発展させる。	①農業3学科、総合ビジネス科で、さらに科の枠を超えた連携、または企業や団体との連携を4科全体で8事業以上実施し、生徒が自ら考え、行動する機会を増やす。 ②農業3学科、総合ビジネス科で外部講師による授業を全体で8回以上実施し、生徒が授業で学んだ知識や技術の深化を目指す。	①4科で8事業以上実施し、専門性を高める教育活動の展開を深め、産業社会に貢献することができるような取り組みができたか。 ②外部講師による授業を農業3学科、総合ビジネス科で8回以上実施し、将来の進路選択を見据えた学習活動を展開し、専門教育活動の充実につながられたか。	①橋本公民館をはじめ、4科で8事業以上の連携を実施することができた。 ②校内外さまざまな機会での外部講師による特別授業があり、4科で8回以上実施することができた。	①移転後に向けて、さらに取り組みが広がるようにしていきたい。 ②実施予定だったものが講師の都合で開講不可になったものもあった。今後は余裕のあるスケジュール設定を心がけ、生徒の知識や技術がさらに深くなるような学習活動を展開したい。	橋本公民館との連携が定着してきている。また、橋本七夕まつりにも多くの生徒が参加している。校舎・校地の移転後も引き続き地域と連携した取組の継続をお願いしたい。	①橋本公民館との連携事業を通じた活動に、多くの生徒が達成感を得ることができた。移転後の地域連携について検討する必要がある。 ②外部講師を活用した学習により、生徒の知識の深まりや技術向上が見られた。	①生徒の学習効果や達成感が得られよう橋本公民館との協力体制がとれるよう取り組む。 ②外部講師の活用を計画的・組織的に実施できるよう取り組む。
5	学校管理 学校運営	①様々な事故を防ぐため、全職員の組織的な取り組みを進める。 ②災害発生時の体制作りを進める。 ③教育環境の整備を推進する。	①各種重要情報の取扱いにおけるマニュアルを見直し、管理の徹底と事故防止を図る。 ②防災備蓄品の整備を実施し、災害発生時の対応について地域との連携を検討する。 ③移転に向けた教育活動の整備等を行うとともに、現在の教育環境を維持する。	①各種重要情報の取扱いマニュアル見直しの完成に努める。電子データ文書の適切な保存廃棄を行い、情報の取り扱いについて啓発のための研修会を行う。 ②防災備蓄品の整備・更新を計画的に行い、分散備蓄場所の検討を更に進める。相模原市や地域と連絡を取り、災害時の連携に向け情報を収集し、連携体制の構築を図る。 ③現在の教育活動をもとに移転後の実施計画を各グループ等で検討する。	①マニュアルの見直しを完成できたか。電子データ文書の適切な取り扱いができたか。研修会を実施できたか。 ②防災備蓄品の計画的な整備・更新ができたか。分散備蓄の検討が進んだか。相模原市や地域の災害対策の情報が収集でき、連携体制が構築できたか。 ③各グループ等で移転前後に想定できる課題を整理、解決し、円滑に移転が行えたか。	①「共有フォルダ」、「重要フォルダ」、「暗号化サーバへ」等のフォルダの廃止や運用方法について一定の整理がついた。 ②防災備蓄品の在庫確認を行い、生徒・職員を対象に喫食訓練を実施することで備蓄品の整備更新を行った。 ③新校での清掃場所や用具の検討、防災計画、行事などの検討に努めた。	①成績処理等のマニュアルの見直しを行っているが、完成には至っていない。各種重要情報の電子データや文書の取扱いは適切に行えた。 朝の打ち合わせや各種会議を利用し、研修会単独の実施はしなかった。 ②引き続き防災備蓄品の整理・整備、計画的な備蓄、新校での分散備蓄の推進、相模原市や地域との連携体制の構築が課題である。 ③移転後の課題に迅速に対応できるよう準備をする。	働き方改革が進められる中、教職員の合理的な業務ができるよう工夫をさらに進めてほしい。 新校地における防犯への意識をもって生徒の指導にあたる必要がある。	①共有フォルダの整理に続き、引き続き成績処理マニュアルの見直し作業を継続していく。 ②新校地での防災、減災の意識を高め、地域との連携を進めていく。 ③移転後の様々な課題を職員全員で共有したうえで対応を検討したい。	①各種重要情報の取扱いが適切にできるよう学事グループを中心に整備を進めていく必要がある。 ②防災に向けた新校地における地域との連携を構築していく必要がある。 ③課題について一元化された情報を共有し、組織的な取り組みを行う。